

～カンボジア・ミャンマーの子どもたちに安全な水を～
「イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」支援金
3,961万1,156円を贈呈

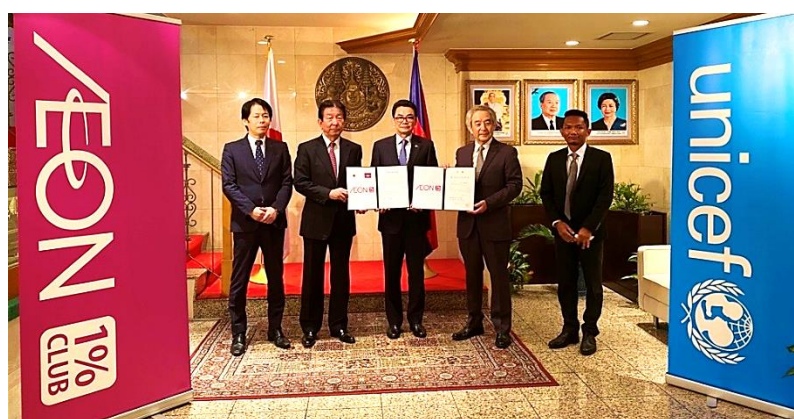
公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、10月15日（金）に駐日カンボジア王国大使館において「イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」のお客さま募金と、当財団からの拠出金、およびイオントップバリュ株式会社からの寄付金を合わせた総額3,961万1,156円を、公益財団法人日本ユニセフ協会へ贈呈しました。

本年度は、2021年4月10日（土）～5月9日（日）の間、イオングループ各社の協力のもと、全国約9,000カ所において募金を実施し、お客さまからお寄せいただいた募金は1,980万5,578円にのぼりました。この募金に、当財団拠出金1,080万3,793円と、イオントップバリュ株式会社が期間中お買い上げいただいた「トップバリュ国内で採水した天然水」（500ml）の本数に応じて寄付した900万1,785円（1本当たり5円）を上乗せして贈呈しました。

これらの募金および寄付は、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じ、カンボジアとミャンマーにおいて安全な水の供給や給水施設の敷設のためにお役立ていただきます。本キャンペーンによりこれまでに57万人*を超える人々が、安全な水を使えるようになりました。

両国には、池や河川の不衛生な水や人体に悪影響を及ぼす恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われている地域がありました。さらに、遠隔地への水汲みに時間をとられ学校の授業に出席できない子どもたちがいるという状況を受け、こうした子どもたちを健康・教育の両面でサポートするため、2010年より毎年、本キャンペーンを実施しています。

当財団はこれからも同事業を通じ、次代を担う子どもたちの健全な育成に貢献してまいります。



駐日カンボジア大使館での贈呈式
（左から）イオントップバリュ(株)横山 憲男 取締役副社長/当財団理事長 森 美樹
駐日カンボジア王国大使 ウン・ラチャナ閣下/日本ユニセフ協会 早水 研 専務理事
駐日カンボジア王国 ケム・ポリヴァット 二等書記官

*カンボジア、ミャンマー、および2021年4月まで支援を行ったラオスを加えた3カ国における人数

【本件に関するお問合せ先】

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 山平 TEL：043-212-6023



公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、

「平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念の具現化を図り、社会的責任を果たすため、1989年に設立されました。イオンのグループ主要企業が税引前利益の1%相当額を拠出し、「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」の3つを柱とする事業活動を行っています。



次代を担う青少年の 健全な育成

環境・社会をテーマに、子どもたちが社会的なルールを学びながら身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。また、教育施設が不足する国々の学校建設などを支援します。

諸外国との友好 親善の促進

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで日本と諸外国との友好親善を深めます。また、日本への留学生に対する奨学金授与など、国際人の育成を支援します。

地域社会の 持続的発展

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承、そしてこれらを担う人材の育成などを支援します。また、大規模自然災害により被災した地域の復旧・復興を支援します。

寄付・協賛企業一覧はこちら
<https://aeon1p.or.jp/1p/>



ご参考

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブのカンボジアにおける社会貢献活動について】

■「バットンバン義肢センター」支援（1998年～2000年）



日本赤十字社とのパートナーシップのもと、1998年より3年間にわたりカンボジア・バットンバン義肢センターを支援しました。同センターは、地雷で被害を受けた人々へ義肢の支給や、リハビリを通じて社会復帰を支援する施設で、イオングループ店舗、事業所での募金及びイオン1%クラブからの寄付金を併せた1億7,300万円を寄付し、支援にお役立ていただきました。

■学校建設支援事業（2000年～2003年）

長く続いた内戦によって失われたカンボジアの教育基盤の早期回復を願い2000年よりイオングループ店舗、事業所での募金を実施し、当財団からの寄付金をあわせ総額3億円を日本ユニセフ協会へ寄付しました。日本ユニセフ協会とのパートナーシップを柱に151校を建設し、約20万人を超える子どもたちが学校を卒業しています。



2001年 カンボジア

■「シハヌーク・イオン博物館」寄贈（2007年）

カンボジアの文化遺産をカンボジアの方々の手により研究・保存いただくため、上智大学アジア人材養成研究センターが2000年、2001年の期間に発掘したアンコール王朝期の仏像を保存・展示すべく、当財団の寄付と上智大学の石澤良昭教授チームとアプサラ機構の協力のもと、建設されました。同館は、カンボジアへ寄贈し、2007年11月の完成式典にはシハモニ国王陛下もご臨席いただきました。

■イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン



カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、衛生的な水の確保が難しく、池の水や健康を害する恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われています。また、遠方への水汲みに時間をとられ、学校で学べない子どもたちもいます。イオン1%クラブは各国の子どもたちを健康・教育の両面でサポートするために子どもたちがくらす村や町に給水施設を設置する、当キャンペーンを2010年にスタート。これまでに3カ国累計で約57万7000名、うちカンボジアでは42万5000名の方々が安全な水を使えるようになりました。

■ティーンエイジ アンバサダー／イオン スカラシップ

「ティーンエイジ アンバサダー」は、日本とアジアの次代を担う子どもたちへ価値観の多様性とグローバルな視野を持つ機会を提供する国際交流事業で、1990年より実施しています。これまでに、日本を含む18カ国2,421名の高校生が参加し、うちカンボジアの高校生76名が参加しました。

また、日本で学ぶアジアからの留学生及びアジア各国の大学生・大学院生に奨学金を付与する「イオン スカラシップ」では、これまでに11の国と地域7,426名の学生に奨学金を支給し、うちカンボジアからの留学生及び同国内学生163名に奨学金を支給しました。

■アジア障がい者ものづくり支援募金

カンボジアをはじめ、アジア各国では社会福祉制度の整備が未だ十分に進んでおらず、障がい者に対する教育・就労支援が不足しています。当財団では、学校のバリアフリー化や、障がいの有無に関わらず、子どもたちがともに学べる「インクルーシブ教育」の推進、職業訓練の実施など、障がい者の方々の自立と社会への参画に向けた取り組みを支援するため、2016年より支援募金を開始し、認定NPO法人 難民をたすける会（AAR Japan）を通じて、寄付を行っています。